

プランニングの手順 (基本骨格編)



イキクッカのプランニングの基本は、まず基本骨格となるオープンな棚ユニットを作り上げることです。この基本骨格だけでも、本棚や、収納棚としては完成品となります。ドアや引き出し、あるいは、テーブルや特殊な形をした棚板など、オプションが必要でしたらその基本骨格にあとで随時追加していきます。

基本骨格のプランニングの基本は次の3つです。

- ① 巻き尺などを使って設置する場所の採寸をします(採寸の際、**巾木の存在と厚み**にご注意下さい)
- ② ユニットの**高さ**と**奥行き***を決めます(つまり、使用する**アップライトの高さ**と**奥行き**を決めます)
- ③ ユニットの**横幅**を決めます(使用する棚板の長さ(横幅)、およびその組み合わせを決めます)

* 使用する棚板の奥行きは、アップライトの奥行きと同じになります。

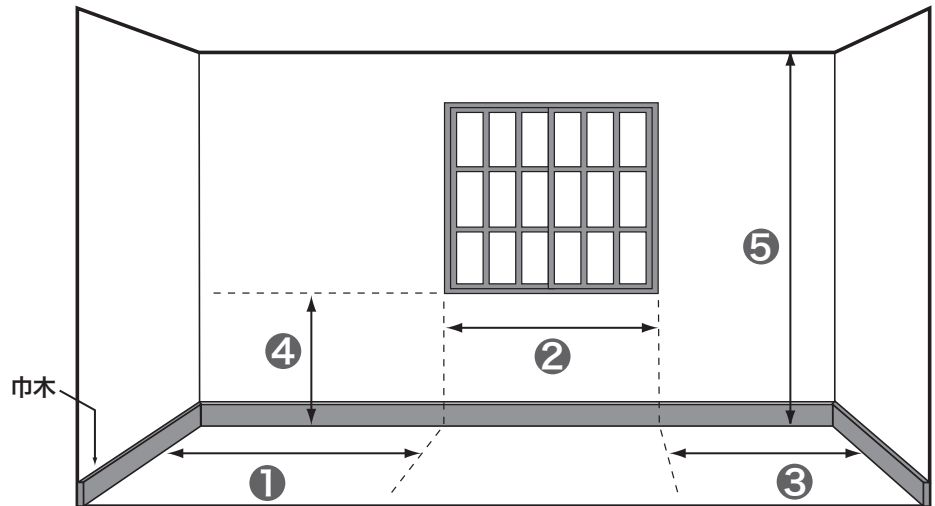
次の例では、イキクッカを使って、窓のある部屋の壁一面に、本棚をレイアウトする場合を例にとり、プランニングの手順を説明します。

STEP 1 設置スペースの幅と高さを測ります。

巻き尺などを使って、窓のサイズや高さ、巾木からの距離などを測ります。

<採寸の一例を下に示します>

- ① 135 cm
- ② 125 cm
- ③ 89 cm
- ④ 86 cm
- ⑤ 240 cm



STEP 2 棚ユニットの高さと奥行きを決めます。

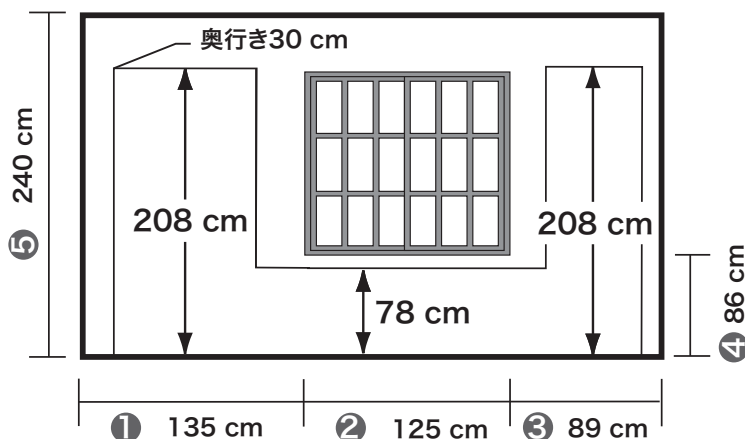
- ☞ 窓の左右の棚ユニットの高さを **208cm** にします。天井高が **240cm** ですから、**208 cm** にすれば、最上段のスペースも有効活用できます。
- ☞ 窓下のスペースは高さを **78cm** にします。
- ☞ 本棚ですから、奥行きは **30 cm** にします。

高さのバリエーション

- 48 cm
- 68 cm
- 78 cm
- 88 cm
- 108 cm
- 128 cm
- 148 cm
- 168 cm
- 188 cm
- 208 cm
- 218 cm
- 228 cm

奥行きのバリエーション

- 30 cm
- 40 cm
- 50 cm
- 60 cm



※奥行60cmはコーナー棚板仕様時のみ

STEP 3 棚板の組み合わせを決めます。



設置スペースに収まる棚板の長さ(幅)の組み合わせを考えていきます。

スペース幅	棚板の組み合わせ
窓の左側: 135 cm	⇒ 50 + 80 / 50 + 60 (コーナー棚板) など
窓の下側: 125 cm	⇒ 50 + 80 / 50 + 100 など
窓の右側: 89 cm	⇒ 40 / 50 / 60 / 80 など

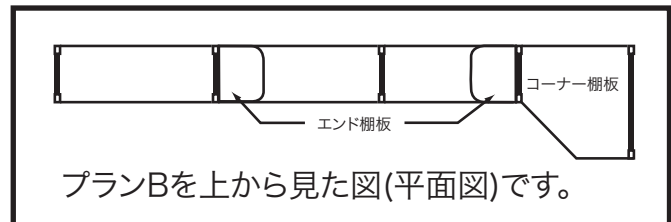
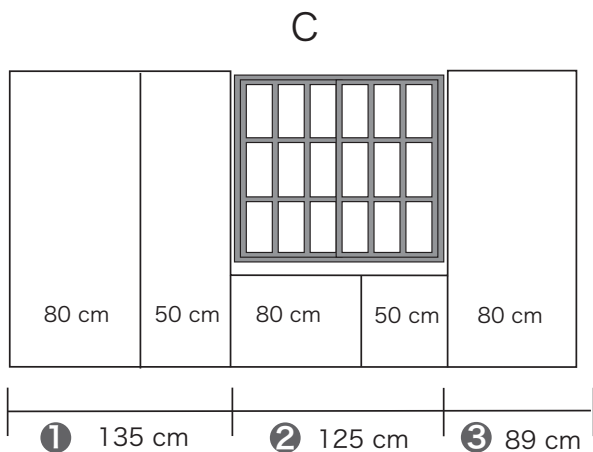
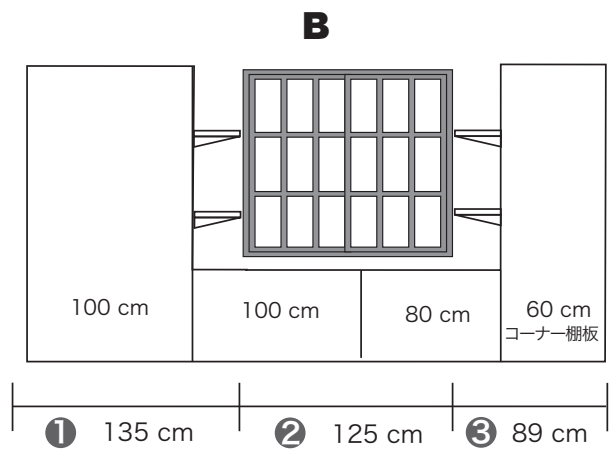
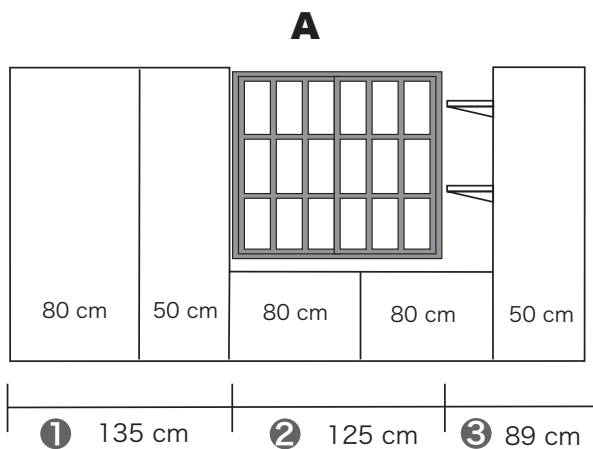
窓の左右にはスペース幅より狭いユニットを、窓下にはスペース幅より広いユニットを組み合わせる必要があります。

★ポイント 両端のアップライトも含めたユニットの外寸は、組み合わせた棚板の長さの和に **5~6 cm** を加え、内寸は **3~4 cm** を差し引いて考えるようにします。【注1】

棚板の長さ(幅)のバリエーション

- 40 cm** (奥行き30・40)
- 50 cm**
- 60 cm** (コーナー棚板)
- 80 cm**
- 100 cm**
- 120 cm**

下に、可能な組み合わせ例をいくつか挙げてみました。**A**、**B**ではエンド棚板を組み込むスペースをとっています。この他にも組み合わせは可能です。

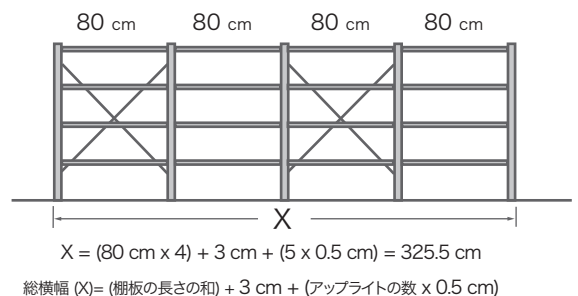


● 棚板の長さ(幅)の組み合わせが決まったら、次に棚板の枚数を決めます。実際に図に書き込んでいくとイメージしやすいでしょう。棚板は5 cm間隔で取り付け可能です。

注1)

例えば右図のように、横方向に4連結された **80 cm** 幅の棚ユニットの総横幅は、約 **325.5 cm** になります(実際には多少の誤差があります)。

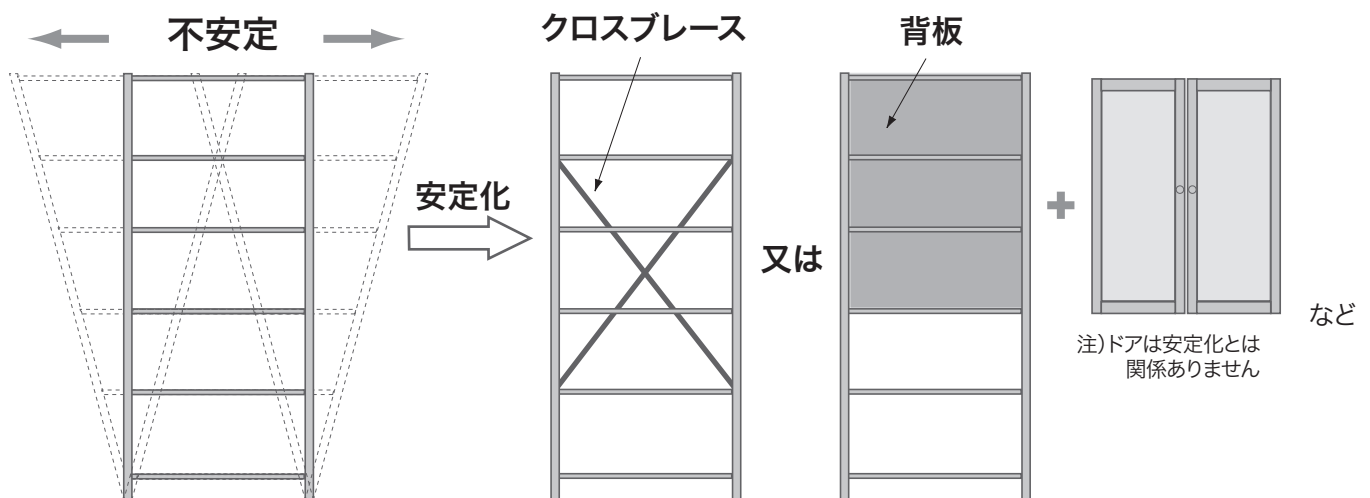
簡単な計算の仕方は、まず、棚板の長さの総和 (**80 x 4 = 320 cm**) に **3 cm** を加え、さらに、オープンアップライトの本数 (**5 本**) 分だけ **0.5 cm** を加えます (**0.5 cm x 5 本 = 2.5 cm**)。



イキクッカ取扱い店では専用のプランニングシートをご用意しています。また、プランニングのお手伝いもさせていただきます。もちろん、お見積りも無料です。お気軽にお問い合わせください。

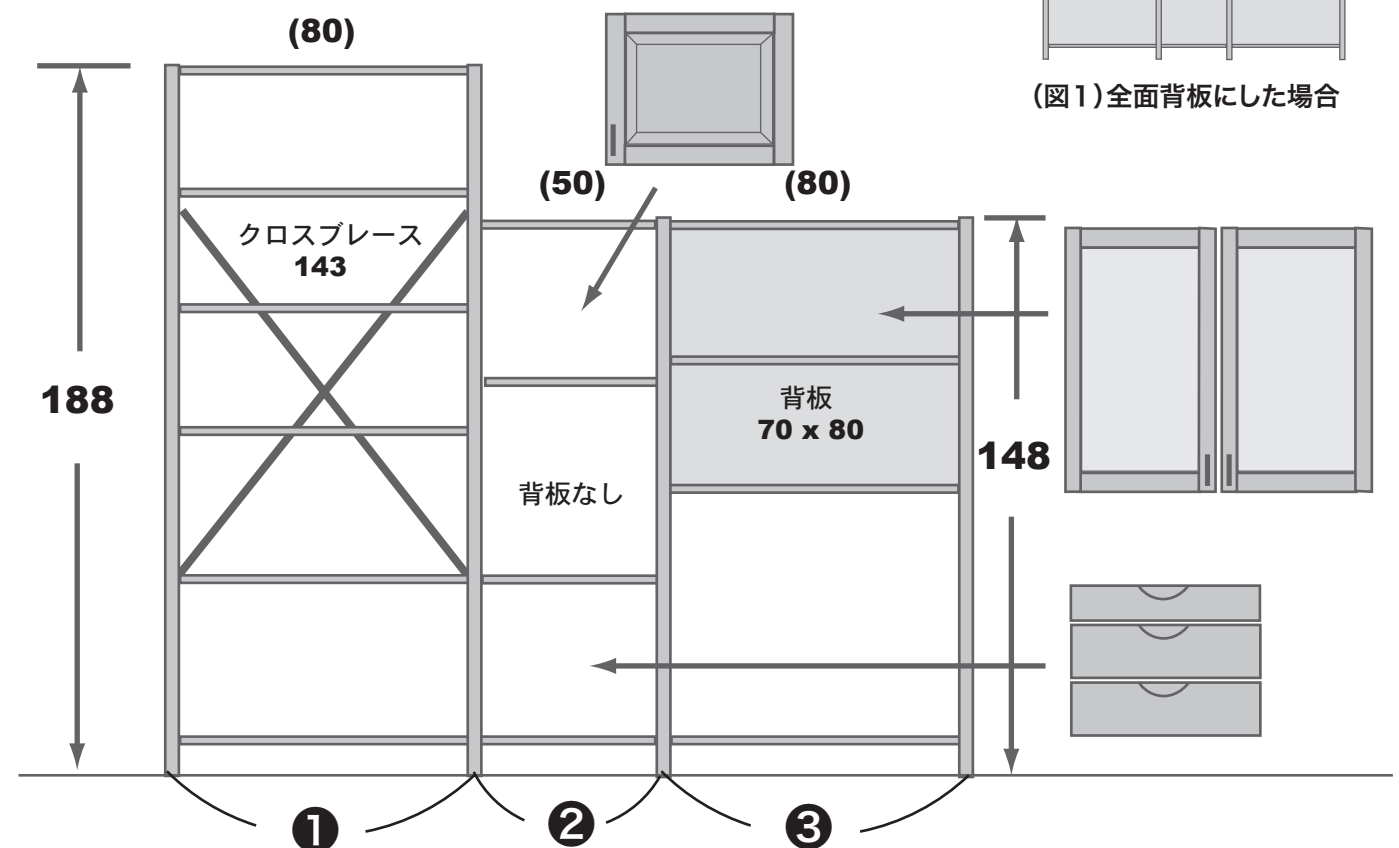
ユニットの安定化 (クロスブレースと背板)

アップライトに棚板を組み込んだだけのユニットは横方向に不安定で、そのままでは棚として使用できません。クロスブレース（筋交い）又は背板で安定化させる必要があります。



横方向に連結されたユニットの場合は一つおきに安定化させます。下の3連ユニットの例では、①の部分でクロスブレースで、③の部分で背板で安定化してあります。クロスブレース、背板にはいろいろなサイズがありますので、プランするユニットのサイズや目的に応じて適切なサイズのものを使用します。安定化のために背板のみを使用する場合、必要な背板の大きさの目安は、背板を取り付けるアップライトの高さの約半分程度とお考えください。

下の例で、①～③の後ろ全体を背板で覆うこともできます(右図1)。前面にドアを多用する場合などには、その方がよりきちんとした家具らしくなりますが、①～③が一つのユニットとして固まってしまうので、組み立てもその後の取り扱いも少し面倒になります。下図例のように、①の部分と③の部分で安定化させた後、両者を棚板でつないで②の部分を作る方が組み立ても組み換えも簡単です。



プランニングのポイント (ドア・引出し編)

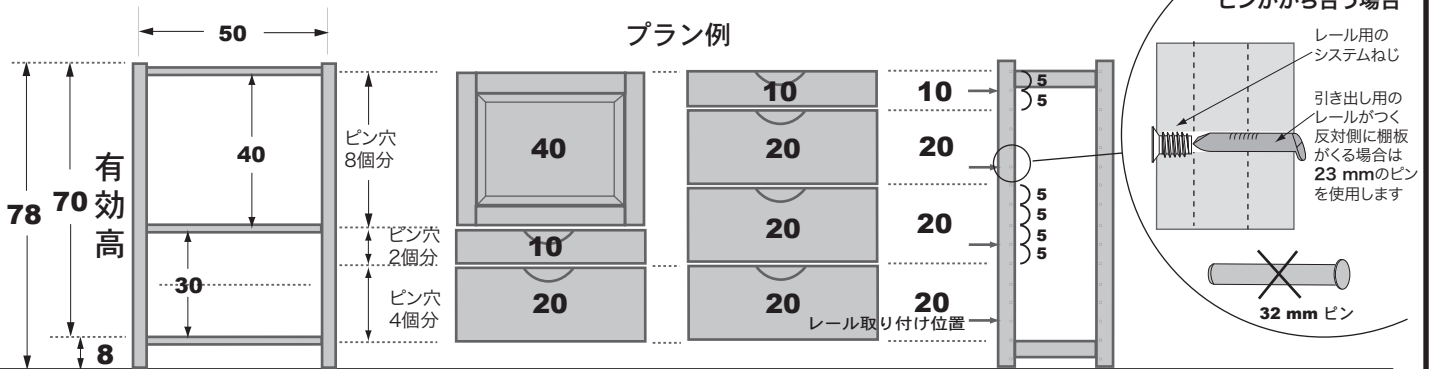


イキクッカでは、アップライト上のピン穴(5 cmピッチ)を利用して、好きな位置(床から8 cmまでの部分を除く)にドアや引出しを組み込むことができます。プランの中で、イキクッカの基本骨格にドアや引出しを組み込む時は、組み込みたいドアや引出しのサイズ(高さ)、および、それがアップライト上のピン穴何個分に相当するかを考えて組み込んでいきます。次のプラン図は、高さ78 cm、幅50 cmの棚ユニットにドアと引出しの組み込み方を示した例です。

☞ 高さ78cmのアップライトにドアや引出しを取り付けることのできる有効高は、 $78 - 8 = 70$ cmです。

ピン穴1個分 = 5 cm

有効高 = アップライトの高さ - 8 cm

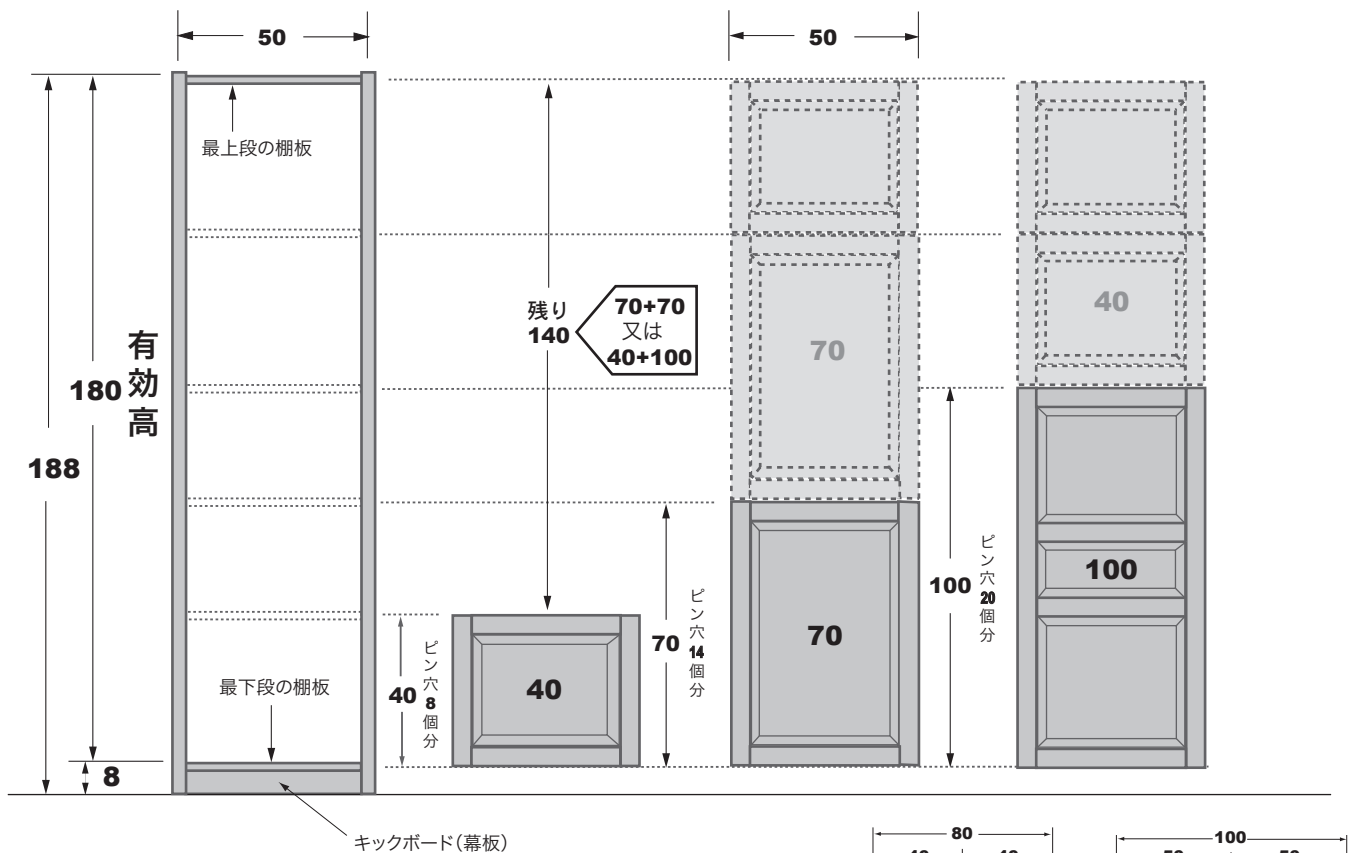


レールの取り付け位置 ⇨ 引出しの下面から5 cm上がったピン穴

ユニットを全面ドアにしたい場合は、下図のように、有効高にうまく収まるドアの組み合わせを考えます。例えば、有効高が180 cmの場合、ドア高の可能な組み合わせは、

40 + 40 + 100 と **40 + 70 + 70** が考えられます。

それぞれのドアの上下端には棚板を配置します。



横幅80 cmのユニットでは幅40 cmのドアを、また、横幅100 cmのユニットでは幅50 cmのドアを、それぞれ観音開きで使用します。

